

どこよりも綺麗な花火！

(おもてなしの心)

明和まつりが8月4日に盛大に執り行われました。21回目を迎えたこの祭りは、町民のかたはもちろん町外からお越しくださり、年々来場者が増え賑やかに行っております。中でも祭りのメインイベントである20時過ぎから繰り出される迫力と熱気あふれる大御輿や20時半からの打ち上げ花火には、多くのかたが押し寄せます。



【繰り出された大御輿】 熱い声援が響きます！（2019.8.4 撮影）

このメインイベントの頃には、日も沈み日中の暑さも和らぎ、過ごしやすい時間帯となりますが、毎年ながら天候の心配をしてしまいます。しかし、そんな心配を吹き飛ばし、今年も花火大会にとって最高のコンディションの夜を迎えました。花火といって私が連想するのは、井上陽水の代表曲である少年時代の「8月は夢花火」という一節であります。夏の夜空を彩る花火は、現実空間の雑踏を忘れさせてくれるくらい美しく、夢心地になります。

今回、そんな夏の風物詩を求めて、明和町の花火を見たいと千葉県から来町されたお客様がいました。そのかたは、足が不自由ですが車いすを巧みにつかい、補助者もつれず1人で車に乗ってこられたそうです。そして、帰りがけに職員にこうおっしゃったそうです。

「インターネットで明和町の花火大会を知りました。私は花火が好きで、あちこちの花火大会に行っていますが、どこの花火大会に行っても安全確保を理由に邪魔にされます。しかし、この町は小さな町ですがスタッフ一人ひとりの心遣いが素晴らしいですね。おかげで今日の花火は近くで見ることができ、今まで見た中で一番きれいでした。どこよりもきれいな花火でした。また来年も見に来て良いですか？」

この言葉に、職員一同疲れが吹き飛んだということで、私にも報告がありました。私自身もそのお話を聞き大変うれしくなり、マニュアルにはない職員一人ひとりの「おもてなしの心」を伝えることができたのではないかと思いました。さらにそのかたからは、後日改めて実行委員会あてに心のこもったお手紙までいただきました。

「また来たい」と言っていただけることが運営側としては、何よりも報われる瞬間です。こうしたありがたいお言葉を掛けていただけたのも、職員が自分自身は何のために誰のために頑張っているのかという答えが見えてきている証しだと思います。職員からその報告を受け、来年は更に良いまつりとするため、また企画から寄付集め、そして運営まで頑張るぞ！とまだ花火の余韻の残る夏の夜空に向かって笑顔がこぼれた出来事でした。また来年も皆さんの心を彩る夏の思い出づくりのお手伝いのできれば良いなと思います。



そして、花火の協賛金をいただきました各企業の皆様、本当にありがとうございました。おかげさまで素晴らしい花火を打ち上げることができましたこと、重ねてお礼申し上げます。

【明和まつり 花火】

どこよりもきれいです！

(2019. 8. 4 撮影)

令和元年8月13日

明和町長 富塚もとすけ